

議会報告会会議録

1 開会日	平成24年5月11日 午後 6時30分 開会 午後 8時30分 閉会
2 場所	町立保健センター2階研修室
3 出席議員	渡辺順子議長 (開会あいさつ) 奥津勝子副議長 (閉会あいさつ) 三澤龍夫議員 (司会) 土橋秀雄議員 (平成24年度予算の主な事業報告) 竹内恵美子議員 (主な議案審議報告) 渡辺順子議長 (前回の議会報告会の結果説明) 二宮加寿子議員 (記録)
4 傍聴議員	片野哲生議員 高橋富美子議員 鈴木京子議員 高橋英俊議員 吉川重雄議員 関威國議員 坂田よう子議員 清水弘子議員
5 参加者	24人
6 報告事項	(1) 平成24年度予算の主な事業について (2) 主な議案について ・大磯町部等設置条例 ・大磯町介護保険条例の一部を改正する条例 (3) 前回報告の結果について ・議員報酬等 (4) その他
7 その他	

平成 24 年度第 1 回(5 月)の議会報告会は、より多くの方の参加の機会をふやすため、曜日・時間帯を工夫し、3 会場で実施した。今回は第 1 会場にあたる。

議員自己紹介の後、議長からあいさつを行い、各報告担当議員から『議会だより大磯』第 164 号を資料として、予算や主な議案に対する審議経過を報告し、質疑応答を行った。

(1) 議長あいさつ

議会基本条例に規定する議会報告会のあり方について説明。

議会報告会は、議案審査における議論の経過・結果など議会としての考え方を報告するものであり、町に替わって答弁するものではない。また、誹謗中傷、個人的な話はお受けできない。いただいた意見・要望は、今後、政策提言に結びつけるなど、議会運営の改善を進めていくことを説明した。

(2) 平成 24 年度予算の主な事業について・・・土橋秀雄議員報告

『議会だより大磯』第 164 号の 2・3 ページに基づき、平成 24 年度予算に対する予算特別委員会及び本会議における主な審議内容等を報告。

◎主な質疑

問：耐震診断結果に基づく国府支所の耐震対策の内容についてはどのようなものか。金額は非常に低いが、どうか。

答：旧館部分の一部に鉄骨で補強する等の耐震診断結果が出された。早急に工事をすべく、実施設計を行う。金額が低い理由は、現時点では耐震設計と第三者判定費用のみで、工事費が含まれていないからである。

問：大磯チャレンジフェスティバルは町主催でなくなると聞いているが、実施費用等の面で実行が可能なのか。

答：今年度は「健康フェスタ」の名称で、実行委員会方式で体育の日に開催予定。予算規模は 150 万円で、実施と考える。

(3) 主な議案について・・・竹内恵美子議員報告

3 月定例会で審議された議案のうち、「大磯町部等設置条例」及び「大磯町介護保険条例の一部を改正する条例」の二つ議案について、『議会だより大磯』第 164 号の 5・6 ページに基づき、審議内容等を報告。

◎主な質疑

問：フラット制の良かった点、悪かった点をどこでどのように分析したか。また、その結果はどうだったのか。

答：今回の機構改革は、町職員全体で議論して決定した経緯がある。町が判断した部課長制と比較したフラット制（課長制）の問題点を踏まえ、議会として認めた。

問：組織が変わったが、職員の指揮・指導はどのように行うのか。

答：人事配置は町長の専任事項となっている。

問：3月23日に町道幹16号線の拡幅計画の説明を受けた。道路計画は以前からあるとのことであるが、自治基本条例の町民の参画と協働の規定に基づき、早期に町民に計画を説明し、意見を求めるべきである。自治基本条例違反ではないか。議員がどのように考えているか確認したい。

答：工事費は未計上である。町は自治基本条例に沿って、住民の方々に説明責任を果たし、協議しながら進めていかななくてはならない。そのことは、議会は町に伝える。本来、議会は機関意思決定が尊重されるので、議員個人の意見を述べることはないが、議員個々の判断で、意見は後ほど答えていく。

(4) 前回報告の結果について・・・渡辺順子議長報告

前回(平成23年5月)の議会報告会において、議員報酬等について多くの意見をいただき、議員報酬検討特別委員会において結論を出した。その内容について、報告した。

(5) その他

全体を通して、質疑を行った。

◎主な質疑

問：介護ボランティア制度は平成26年度から計画を実施するのか。また、具体的な案は提示されているか。前倒しできる案を検討し、老々介護助け合い制度でもあるこの制度に力を入れてほしい。

答：議会で導入を求める質問があるが、予算計上はされていない。26年までには実施と聞いているが、急がせてやらせるようにはしたい。

問：小学校体育館の設計費予算は計上されているが、工事費の予算はどのくらいか。

答：大磯小学校の体育館が使用できず、今は設計を実施している段階であり、工事費金額がわかるのは早くも9月議会になる。

問：南下町は木造住宅密集地であり、地震で火災が起こりやすい。東京都は不燃化特区を設け、そのような地域の防災上の配慮をしている。大磯では、そのような地域への重点的な予算措置等を考えているか。

答：耐震診断や工事の補助はしているが、密集地対策は無い。

問：公共施設における電力の省エネ対策が消極的であるが、PPS導入効果費用を省エネ対策に使用してはどうか。また、今後の具体的な進捗をどのように考えているか。

答：機構改革で、公共施設について専門的な部署ができた。ピーク電力に対して基本料金が決まるので、リニューアル計画も含めて夏場のピーク電力を下げる努力をするよう、議会からも働きかける。

問：この議会報告の中で町財政全般が紹介されていない。財政上、税収が減っている状況で起債が増えているが、将来を見通した財政計画は考えられているのか。

答：現在の借金の総額は合計で約160億円。予算で示された公債費（借金返済）推計表では、公債費のピークが27年度となっている。下水道の整備が進み、下がっていく予定である。

問：万台こゆるぎの森の保証金2億円のうち、2,000万円しか納められていないが、毎年、契約更新されている状況である。議会として意思表示をする必要があるのではないか。

答：万台こゆるぎの森の保証金は、一般に家を借りるときの敷金のようなものである。町民の財産である万台こゆるぎの森の保証金については、町としてきちっとした対応を考えていきたいと思う。

問：津波の避難で大磯駅、小学校等への移動の際、避難経路の県道（大磯停車場線）は、歩道も狭く避難するときにパニックになる恐れがある。県に申し入れたが対応してもらえない。避難する自動車を止めることは難しいため、安全確保のため歩道の拡幅を働きかけてほしい。

答：機構改革で、危機管理対策室もできた。地域の要望を把握し、地域にあった防災計画の策定が必要だと考える。議会も一緒になって取り組んでいきたい。

問：生活交通確保対策事業が4月から開始された、駅前からの利用者が非常に少ない状況であるが、その成果をどのように考えているか。

答：35人乗りのバスが通れる場所を走るにとどまっている。

以前から赤坂台から要望が出ていたが、今回、高麗を回る話がいきなり出てきた。利用者の人数も含め、議会はルートやダイヤなど問題があると認識しており、事業の成り行きを今後も見極めていく。

問：役場横の葬儀場建設計画について、5月17日に公聴会が行われる運びとなった。計画ではガードレール（国道1号）を4m外すという話があるが、横断歩道が前にあり、子どもの通学路にもなっており検討してほしい。また、代替用地の検討と建物制限の条例策定を要望する。

答：要望として受けとめる。

(6) 閉会